平成 21 年度　学校自己評価表（№1）

国際学院高等学校

建学の精神	「誠実」「研鑽」「慈愛」「信頼」「和睦」	重 点 目 標	21 世紀知識基盤社会、国際社会に通用する人格の形成と学習力の育成 特別選抜／特別進学／総合進学／総合調理の各コースの生徒に応じた教育の実践 地域に愛され、地域に育まれる学校を目指した、「地域貢献活動」の積極的な展開
教 育 方 針	「礼をつくし、場を清め、時を守る」		

評価項目	行動目標	具体的方策	評価指標	難易度	中間評価	後期への改善方策	最終評価	目標の達成状況	次年度への改善方策	担当分掌
学習指導	主体的学習習慣の確立	○ チャイム授業を定着させる。 ○ 教師はチャイム前に職員室を出て教室で生徒と共にチャイムを聞くようにする。	○ チャイム授業が定着できた。	A	C	○ チャイム着席も未達成であるため、更に意識を高める必要がある。	C	○ 一部ではあるが、チャイム授業の意識が高まってきたものの、学校全体としては、未達成の状況である。	○ 今年度同様にチャイム授業を目標に掲げ、教職員研修会やＬＨＲなどを活用して、生徒・教職員の更なる意識の高揚を図っていく。	教務
		○ 定期的に課題を出し、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ○ 定期的に小テストを実施することで、日々の学習の定着度合いを確認させる。	○ １日１時間以上の家庭学習の習慣が身についた。	B	B	○ 小テストを実施している科目もあるが、全体的に見ると、まだまだ不足しているので、更なる充実の必要がある。	B	○ 長期休業前には学年で課題についてまとめるなど、生徒に対する家庭学習への呼びかけはできた。 ○ 一部ではあるが、小テストを実施するなど、生徒の学習到達の確認が行えた。	○ 定期的に課題を出す、小テストなどを実施する、などを継続して行い、生徒の家庭学習の習慣を確立させていきたい。	
		○ 公開授業、『国際流学力向上対策』、授業アンケートを活用して、より分かりやすい授業を展開する。	○ 生徒の理解度が向上した。	B	B	○ 公開授業があまり行われていないので、積極的に実施するように呼びかける必要がある。	B	○ 授業アンケートはきちんと実施できた。 ○ 公開授業は一部実施された。 ○ 『国際流学力向上対策』については、一部実施されていた。	○ 前期･後期各１回ずつの公開授業の実施を原則として、更なる授業力の向上に努める。 ○ 授業アンケートを元に各々の授業の見直しを行うとともに、教科会で共有していく。	
生徒指導	基本的生活習慣の確立	○ 校則違反に対して、チェックカードを用いて指導の徹底を図る。	○ チェックカードを受けた生徒が在籍の 5％以内である。	A	C	○ 更衣に伴い項目を確認し指導の徹底を図る。	C	○ 年度当初は服装の指導によるものが多い。後期に入ると服装よりも、各学年が実施する頭髪指導のチェックが大半を占めた。 ○ 全教職員が厳しい生徒指導を行うことができた。	○ 服装の指導の徹底は当然、その他の事項も徹底し、全教職員が共通理解で見逃さず、実施できるよう定期的に連絡、研修を行う。	生徒指導
		○ 遅刻、欠席生徒の指導をする。（行事等、理由を明確に示せるように）	○ 特別な理由のない遅刻､欠席生徒がいない。	A	C	○ 各学年等から遅刻等のない生活習慣の重要性についての時間を有効に活用するとともに連絡の徹底および指導を行う。	B	○ 各学年による遅刻等の特別指導の実施により減少傾向になりつつある。体調による遅刻、欠席も指導の視野にいれ体調管理についても意識の向上に繋がった。	○ 遅刻、欠席の回数（週単位）を学校（指導部）として設定し指導体制を確立し、各学年共通にできるよう、実施していけるように明示する。	
		○ 自転車通学者の点検指導および合羽着用の徹底を図る。	○ 定期的に交通安全委員会を開催し､自転車マナーについて理解し実践できた。	A	B	○ 交通安全委員会を開催するとともに、マナー講習会を実施する。	B	○ 雨天時の合羽着用率は完全ではないものの飛躍的に向上した。自転車点検も実施できたが、講習会の実施ができなかった。	○ 外部講師を依頼し、計画的に安全教育を実施する。 ○ 自転車点検の回数を増やし、意識を継続させる。	
		○ 授業中の巡回を行い、基本的な学習態度を身につけさせる。	○ 私語や居眠り､服装をきちんとした､学ぶ姿勢が身についた。	B	B	○ 各学年で実施している巡回中の把握と放課後の指導の徹底を図る。	B	○ 各学年で空き時間等調整し、巡回を行うことができ、指導を行うことができた。	○ 授業態度を含め、理解できるように集会等を活用し、意識の向上を図り継続する。	

平成 21 年度　学校自己評価表（№2）

国際学院高等学校

評価項目	行動目標	具体的方策	評価指標	難易度	中間評価	後期への改善方策	最終評価	目標の達成状況	次年度への改善方策	担当分掌
生徒指導		○ 積極的に教職員が挨拶し、挨拶の重要性について説く。	○ 校内での教員や来客に対して挨拶がきちんとできている。	B	B	○ 挨拶の仕方を各 HR で徹底させる	B	○ 挨拶及び仕方について教員の意識が統一できたが、不十分である。	○ 教職員から積極的に明るく挨拶をすることから実施する。そのためにも年度当初からの研修事項に含め共通理解する	生徒指導
		○校内の施設・設備に対する意識を高める。	○ 校内の施設･設備を大切に扱うことができた。	B	B	○ ＨＲ等で施設の取り扱いについて重要性を説く時間を設ける	B	○ 施設の大切さについての理解はまだ不十分である。	○ 学校の施設（公共のもの）に対する講話等をとりいれ意識の高揚を図る。	
		○各部署（学年、保健室、バス、保護者）と情報交換し、早急に指導体制及び危機管理体制を整え、指導にあたる。	○ 学校内外の生徒の意識が向上した。	B	B	○ 保健室への巡回を増やし、相談状況の把握と生徒の実態を確認指導する	B	○ 各学年、保健室等の連携及び保護者とは情報交換はできている。 ○ カウンセラーとの情報交換が不足していた。	○ 各学年等連携は、今年度同様できるものの、カウンセラーとの連携を各月指定することにより、改善できるものと判断する。	
進路指導	進学学力の向上と、生徒の希望進路実現	○ 進路指導部で生徒個々の成績、進路希望等を管理し、学年や担任の進路指導を支援する。	○ 第 3 学年の生徒の進路希望を実現し､昨年度以上の進路実績を収めた。	A	B	○ 進路希望が未定である生徒はいない。特に一般入試の生徒に対して講習を中心に指導していく。 ○ 教科の主任会議、模試の検討会で個別の支援対策を作成実施していく。 ○ 模試のデータを基に適切な受験校の決定を指導していく。	A	○ 大学への進学希望者は、平成 22 年 1 月 26 日現在で、61.8%と昨年度より向上した。 ○ 現時点で、国公立の合格者が 2 名でるなど、昨年度以上の進路実績を上回ることができる見込みである。	○ 低学年から志望理由書の作成、進路説明会を通して、進路意識を高め、目標（志望校）をしっかりと持たせ、受験に向けて学習に取り組むことができるようにする。 ○ 進路指導部が主となり、学力向上に向けて、各教科と連携を図りながら学力向上策の計画、実施をしていく。	進路指導
		○ 校外模試の事前･事後指導を行う。 ○ 校外模試の受験後に検討会を開く。 ○ 各講習会の内容を充実する。	○ 校外模試の平均偏差値が昨年度より向上した。	A	B	○ 各教科の指導目標、その指導計画をより明確にし、実行に移す。 ○ 家庭学習を促す適切な課題の質や量を各教科で検討し、実行する。	B	○ 特選・特進クラスの生徒については、成績上位者が増加した。 ○ 総合クラスは全体的な底上げがまだまだ不十分である。	○ 放課後講習、長期休業中の講習の目的、内容などを明確にし、それぞれの講習がよりつながりのあるものとしていく。 ○ 校内実力テストや模擬試験を通して、生徒の学習課題を発見し、課題に合わせた対策から基礎学力の向上を図る。	
広報活動	分かり易い資料等の作成	○ 定期的に更新するなど魅力あるホームページを心がける。	○ ホームページは適切に更新された。	B	B	○ ほぼ、適切に更新された。	B	○ ほぼ、適切に更新された。	○ 閲覧者に必要な情報が分かりやすく発信されるとともに、よりインタラクティブなホームページ作成を心がけていく。	生徒募集
		○ パンフレット、ポスター、チラシ等､受験生を引きつける内容のものを作成する。	○ 予定された完成時期が守れた。 ○ 受験者数が昨年度を上回った。	A	C	○ 完成時期が遅れた。来年度に向けて準備を始める。	B	○ 来年度への準備が進められている。 ○ 受験者数が昨年度を上回った。	○ パンフレット等の作成担当者を明確にし、訂正箇所がないように、校正の分担をしっかりと行う。	

※ 難 易 度　Ａ＝かなり難しい。　Ｂ＝標準的な難易度。　Ｃ＝比較的易しい。

※ 評価基準　Ａ＝十分達成できた。　Ｂ＝概ね達成できた。　Ｃ＝あまり達成できなかった。　Ｄ＝目標設定を見直す必要がある。